



10月号

ひだまり

今月のエッセー

ないものねだり



最近、本当は恵まれているのに「ないものねだりをしているな」と思うことがあります。忙しいと暇が欲しい、暇だと忙しくなりたい。あれもしたい、これもしたい。皆さんは、そんなことを思ったりはしませんか？

先日、何か面白い事はないかと手に取った本に、こんな話がありました。

海に一匹の魚がいます、その魚は「この海は私の求めている海ではない！」と言って、自分の理想の海を探しに出かけます。「どこに私の探している海があるのだろうか？」魚は必死に探し回ります。探せば探したただけ色々なものが見えてき

ぶったにゃんの

ひだまり仏教クイズ



問題

曹洞宗では「兩祖」として二人の僧侶を仰ぎ敬っています。一人は道元禪師、ではもう一人は誰でしょう？

- ① 瑩山禪師 けいざん
- ② 達摩大師 だるま
- ③ 良寛禪師 りょうかん

九月号の答え ②番 お彼岸

先月の答えはお彼岸でした。お彼岸は日本の暦と関係しており、春分の日と秋分の日を中日とした前後三日間を言います。現在ではお彼岸の季節になると多くの人々がお墓参りに出かけ、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えます。また、昔から日本では種まきと収穫の時期にあたるこの時期に豊作を祈り、食べ物を生み出す自然に感謝をしてきました。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるように、私たちの生活に根付いた仏教行事である「お彼岸」。ご先祖様や自然に対して想いを寄せることで、自身の生き方を見つめ直す大切な期間になっているのです。

編集後記

彼岸が過ぎ、ようやく秋らしくなってきました。

秋といえば、食欲の秋・読書の秋・スポーツの秋など様々な過ごし方があります。私の場合、今年は「紅葉の秋」です。長野県の実家にいた時は、当たり前だった山の紅葉。東京に来てまだ半年ですが、山が恋しい…。田舎が恋しい…。ということで、今年は生まれて初めて、紅葉を見るために旅行に出かけようと思っています。

皆さんは今年、どんな秋をお過ごしになりますか？

季節の変わり目。体調を壊さないよう用心しながら、共に「〇〇の秋」を楽しみましょう。

◆竹村信彦 たけむらしんげん

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

て、どんどんどんどん魚は遠くまで泳いでいきます。

青い所もあれば、きれいな緑色の所もある。ゴミだらけでなんだか変な臭いのする所もある。「うーん。一体どれが本物の海なのだろう？私の行きたい海はどこだろう？」そんなことを考えているうちに、魚は考えすぎてもう何が何だかわからなくなってきました。青い所がいいと思っていたのに、やっぱり緑もいいと思ったり、離れるとまた青が恋しくなったり。しかしそんなことを繰り返していたら、魚はだんだんと疲れてしまい、ついに眠ってしまいました。

そして、ようやく眠りから目を覚ました魚は、とても大切なことに気が付きます。自分がずっと探していた海の中に、最初からずっと自分は抱かれていたのだということに。

「ああ、これで良かったんだ」

あれじゃないこれじゃない。あれが欲しいこれが欲しいと思うことも時にはあります。けれども、この本を読んでみて、今身近にあるものへの感謝は絶対に忘れずにいよう。そんなことを改めて感じさせられました。

◆大澤香有 おおさわかうゆう

法のお話



一年度
國生徹雄

『行持』

皆さんは「行持」という言葉をご存知ですか？「行事」という言葉はよく耳にしますが、この「行持」は聞きなれないのではないのでしょうか。「行持」とは仏道の修行を常に怠らせずに続けることです。仏道の修行というとお経を唱えたり、坐禅をしたりすることを思い浮かべるかもしれません。しかし、日々の生活の中で出来る自分が良いと思う行いや、世のため人のためになる行いも仏道の修行なのです。

私は今年の五月に祖父を亡くしました。祖父は僧侶で、住職は次の代に譲っていましたが、境内の草取りや植木の手入れをしたり、塔婆を書いたりといった事はその後もしていました。

私は大本山總持寺での修行を終え、二十五歳の時、祖父のお寺に半年ほど住んでいたことがあります。祖父は朝起きると、天候の悪い日以外は毎日外に出て草取りをするのが日課でした。私もそこにいる間は祖父と一緒に草取りをしていました。ある日、一緒に草取りをしている時に、祖父にこのように尋ねたことがあります。

「おじいちゃんはまだもう八十歳になるのに毎日草取りをして大変じゃないの？」

すると、祖父はニッコリと笑いながら次のように答えたのです。

「境内の草取りは自分が好きでやっているのだから大変ではないんだよ」

この言葉を聞いて、境内を綺麗に保つことが祖父にとっての生きがいであり、仏道の修行なのだと感じました。しかし、いくら自分が好きな事とはいえ、八十歳という年齢で、毎日草取りをすることは容易なことではありません。それでも毎日同じことをコツコツやっていく。私から見て祖父はまさに「行持」の人でした。祖父が亡くなってからしばらくして、お寺に行きました。境内を見てみると

所々に草が生えています。祖父が生きていた時には見る事が無かった光景でした。「自分が草取りをしなくては」ふと私はそのように思い、草取りの道具を手にとって草取りを始めました。境内を少しでも綺麗にすれば、亡くなった祖父もきっと喜んでくれるだろうと思ったのです。

『修証義』というお経に、次のような一文があります。

後らに百歳生けらんは恨むべき日月なり、悲むべき形骸なり

この一文は、何かを為すこともなく、うかうかと百歳ほど長生きしたとしてもそれは後悔の多い月日であり、充実した生き方をするのでなければ、悲しむべき人生であるという意味です。

皆さんは毎日継続していることはありますか？ある人はこれからも続けていくべきでしょう。ない人でも決して遅くはありません。私たちの命には限りがあります。だからこそ、今をどう生きるか考え、実践していく事が大切なのではないでしょうか。

いろんな仏様

『馬頭観音菩薩』



今回ご紹介するのは馬頭観音です。馬頭観音はその名の通り、馬の頭を持った仏様です。その姿から、交通の足として使われた馬の安全を祈願する(交通安全の)仏様として道にお祀りされることもあります。

では、なぜ馬の頭を持っているのでしょうか。この馬頭の本意は、馬が草を貪り食うように、人々の煩惱を取り払い苦しみから救うことにあるのです。馬頭観音の表情を見ると他の穏やかな観音様とは違い、憤怒の表情をしていることが分かります。馬頭観音は親が子を叱り諭すように、人々が道を誤らぬよう、時に厳しい眼で人々を見守って下さる仏様なのです。

体裁を気にしてしまうあまり、人に毅然と注意できない私にとって、馬頭観音の厳しい眼光は、形だけの優しさではない、真に人を思う温かな眼差しに感じられます。



◆畔柳公潤

ひだまり

ぐん当地グルメ



島根県より
『しじみ汁』



今月はお酒好きの心強い味方、しじみ汁をご紹介します。栄養たっぷりのしじみ汁は肝機能を高め二日酔いに効果抜群。それだけでなく、鉄分が豊富で貧血にも効果があると言われてい

ます。

島根県にある宍道湖は、全国シェア四割を超える日本一のしじみの産地です。そんな宍道湖のしじみの特徴は、何と云っても海水と淡水が混じりあう環境で育まれた独特の「旨み」です。しじみは真水に浸かると旨み成分が逃げってしまうのですが、宍道湖は日本海から流れこむ海水の影響で、しじみの発育に丁度良い塩分濃度が保たれています。そのため、大振りで旨みの詰まったしじみが沢山とれるのです。ひよっとすると、すでに皆さんも宍道湖のしじみを使ったしじみ汁を召し上がったことがあるのかもしれませんが。

◆堀江紀宏